

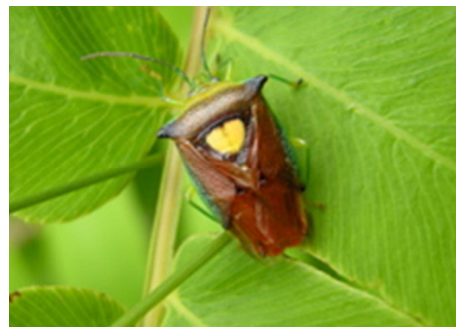
## 名前は怖いが

### 1. エサキモンキツノカメムシ

カメムシといえば誰もが敬遠する虫です。やはり、名前どおりの匂いを出します。しかし、分かっているものぞいてしまう虫です。

成虫は体長が1cmより少し大きいくらいですが、模様が目立ちます。ハート型をしている背の黄色の紋が目立ちます。脅さなければ匂いを出さないのでもっと見ましょう。名前のツノは胸部の左右に突き出た部分で、モンキは黄色の紋、エサキは学名をつけた昆虫学者の江崎悌三九州大学教授に由来するものです。ハートの黄色は濃いものから白っぽいものまで個体差があります。

カメムシは幼虫と成虫で大きく色彩が変わるものが多いのですが、エサキモンキツノカメムシはあまり変わらないほうです。幼虫の時にはハートはありません。蛹(さなぎ)の時期はなく、秋に最後の脱皮をして翅が完成し成虫になると、隙間などでそのまま冬越しします。幼虫は木の実の汁を吸って成長します。カメムシはセミと同じ仲間ですから、汁を吸う口をしています。幼虫の若い期間は群で生活し、卵から2齢幼虫まで雌が保護する昆虫として有名です。



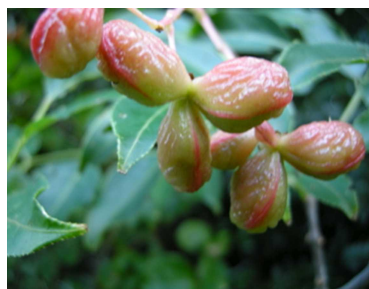
エサキモンキツノカメムシ



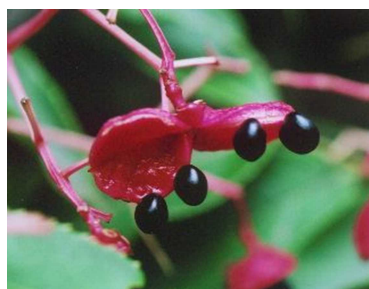
成虫と終齢幼虫

### 2. ゴンズイ

明るい場所を好むため、遊歩道脇で出会う木です。特に秋は実が赤くなり、はじけて黒い種子が見えるので目に留まりやすくなります。落葉前の葉の緑とのコントラストがすばらしい木なのですが、名前が問題です。



ゴンズイの赤い果実



はじけた黒い種子



ゴンズイ

魚にもゴンズイがいます。群を作って泳ぎ、毒棘を持ち、役に立たないもののひとつとして挙げられる魚です。樹木のゴンズイも、材は柔らかくて折れやすいため、役に立たないものとして同じ名前を付けられた、という説もあります。水揚げが悪く、花材にも使われません。

花は房状にたくさん咲くため、果実もまとまって付きます。果皮はだんだん厚くなり、表面の小さな凹凸が目立つようになると色づきはじめ、やがて下側が割れて果皮に種子が付着した状態となります。山椒の種と色、形とほぼ同じです。